

## 平成19年3月の解説（週間天気予報）

### 【3月の天候状況】

上旬前半は移動性高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れました。上旬後半から中旬にかけては低気圧が通過した後、冬型の気圧配置となることが多く、日本海側では雪や雨の日が、また、太平洋側では晴れの日が多くなりました。下旬は低気圧が頻繁に通過し、全国的に雨や雪、曇りの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は南西諸島、東日本の日本海側及び北日本では平年より少なく、東日本の太平洋側と西日本では平年より多くなりました。降水量は北日本から東日本にかけての日本海側で平年より多く、北日本、東日本の太平洋側と西日本で平年より少なくなりました。気温は全国的に平年を上回り、東日本、西日本では多くの観測地点で平年より1以上高くなりました。

### 【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より5ポイント高い72%でした。ほとんどの地方で例年より高く、特に関東甲信、東海、四国、九州北部、沖縄地方では6から11ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年に比べてほとんどの地方で小さくなり、特に北海道、関東甲信、北陸、近畿地方で0.6から0.7小さく、全国平均では0.5小さい2.3でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も例年に比べてほとんどの地方で小さくなり、特に北海道、関東甲信、中国地方で例年より0.4から0.5小さく、全国平均では例年より0.2小さい2.1でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【3月の週間天気予報から】

低気圧が日本の南海上を東へ進む場合、その進路によって関東地方では沿岸部だけで雨が降る場合や内陸部も含む広い範囲で雨が降る場合などその影響が大きく違います。

3月16日にも南海上を低気圧が通過しました。週間天気予報では7日前から一貫して

東京地方で雨が降ると予報していました。これは低気圧が東京地方の近くを通過すると予想したためです。

3月9日(7日前)の予報で使用した3月16日21時の予想資料(図1)では、低気圧が東京地方の近くを通過して三陸沖に進み、東北から九州にかけて広い範囲で降水(図でハッチがかかった部分)を予想していました。

一方、図2は3月16日21時の実際の天気図です。図1と比べて低

気圧の位置が予想より南になっています。このため、関東地方では15日の夕方から16日明け方にかけて、神奈川県と房総半島のごく一部の地域で雨が降っただけでした(図3)。

この事例では、日本の南海上を低気圧が東へ進むことは7日前から予想できていました。しかし、低気圧が予想より南を進んだため、関東地方の雨の範囲は沿岸部に限られ東京地方ではほとんど雨が降りませんでした。日本の南海上を低気圧が東へ進む場合、低気圧の進路の違いによって雨が降る範囲が大きく変わるため、天気予報が難しくなります。

#### 【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、日本の南海上に前線が停滞するようになるため、南西諸島では本土より一足早く梅雨に入ります。平年の入梅は沖縄地方では5月8日頃、奄美地方では5月10日頃です。この前線がときどき北上して一時的に停滞すると、西日本や東日本でも数日の間、雨や曇の日が続くことがあり、場合によっては大雨となることもありますので注意が必要です。天候に左右されやすい屋外の活動や行事の準備には、週間天気予報を利用して下さい。

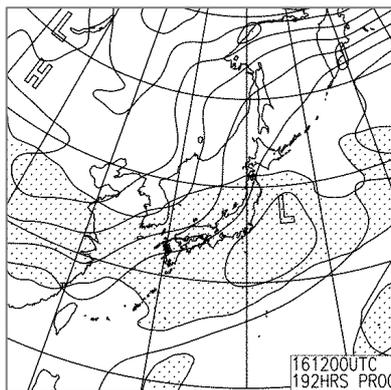


図1 3月9日の予報で使用した3月16日21時の予想気圧配置

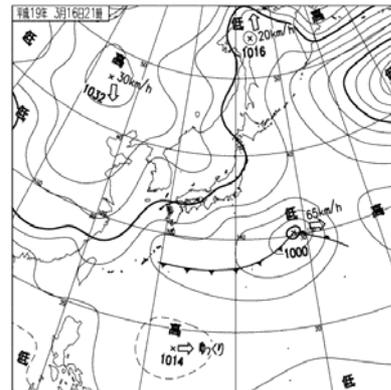


図2 2007年3月16日21時の地上天気図

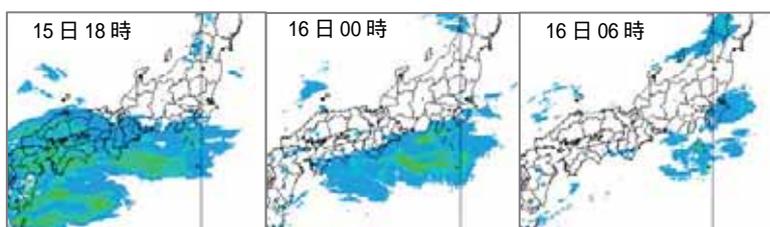


図3 2007年3月15日18時から16日06時の降水の範囲(解析雨量)